

全酪連会報 8

2017 AUG No.623

第68年度(平成29年度)

通常総会開催される (前編)

第46回 全国酪農青年女性酪農発表大会①

若手後継者の本音／荒井裕人さん

購買部だより／DMSシステム 平成28年集計結果

酪農トピックス／「佐賀県酪農婦人部連絡協議会親睦ボーリング大会」
開催される(福岡)

人事異動

日本酪農見て歩紀／岐阜県中津川市 古田幸人牧場



全国酪農業協同組合連合会



通常総会開催される

前編



▲ 総会風景

本会は、7月27日(木)13時より、TKPガーデンシティ品川(東京都港区高輪)において、第28年度通常総会を開催し、平成28年度の事業実績、剰余金処分案、平成29年度の事業計画案の承認を得るとともに、役員の新選任を諮りました。

平成28年度事業実績及び平成29年度事業計画

(単位:百万円)

科 目	平成28年度 実績 ①	平成29年度 計画 ②	②/①対比
酪農事業(取扱金額)	10,013	9,717	97%
購買事業(取扱金額)	71,487	69,283	97%
総取扱金額	81,501	79,000	97%
事業総利益	11,443	11,010	96%
販売費用	7,299	7,576	104%
事業管理費	2,968	3,093	104%
事業利益	1,175	341	29%
事業外収益	1,037	1,011	97%
事業外費用	636	742	117%
経常利益	1,576	611	39%
特別利益	8	0	0%
特別損失	21	116	552%
税引前当期利益	1,563	494	32%

※科目ごとの金額について、百万円単位未満を四捨五入した数値を表記しているため、下限数値が合致しない場合がある。

本総会には来賓として、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課・本田光広 乳製品調整官、農林中央金庫・岩曾 聡 常務執行役員をはじめとして、公益社団法人中央畜産会、一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人全国酪農協会等関係団体から多数のご臨席をいただきました。

総会は、原田康典氏(山口県酪農)を議長に選出して議事に入り、いずれの議案も賛成多数で原案どおり承認されました。

また、第4号議案「役員の新選任に関する件」において、補欠選任を行い、新たに役員を選任しました。

※詳細につきましては、次回9月号に掲載いたします。

新役員紹介

第4号議案「役員の選任に関する件」において、塩見 忠則 理事、佐々木 勲 代表監事の退任に伴う補欠選任が行われ、小前 孝夫 氏(大山乳業農業協同組合・代表理事組合長)が理事として、工藤 定幸 氏(岩手中央酪農業協同組合・代表理事組合長)が監事として新しく選任されました。

また、総会終了後の第6回監事会において、大久保 克美 氏(東毛酪農業協同組合・代表理事組合長)が代表監事に選任されました。



●理事(新任)
小前 孝夫
大山乳業農業協同組合



●代表監事(選任)
大久保 克美
東毛酪農業協同組合



●監事(新任)
工藤 定幸
岩手中央酪農業協同組合

全国酪農青年女性酪農発表大会 ①

酪農経営発表の部

田中進さん(東北会議)が農林水産大臣賞を受賞!!
長友佳奈美さん(九州会議)が審査委員長特別賞を受賞!!



7月13日(木)～14日(金)の両日、北海道札幌市「札幌ビューホテル大通公園」において全国の酪農生産者および関係者約530人が参集し、「第46回全国酪農青年女性酪農発表大会」が開催されました。

大会は小園副委員長による開会宣言で開会、砂子監事による綱領唱和に続き、半澤委員長より、主催者として

「先日、九州北部で大変な洪水被害が発生し、いっどこで災害がおきても不思議ではない時代になってきています。色々な苦難に直面しても、酪友の皆さんの絆、そして皆さんの元気で苦難を乗り越え、復興に向かっていただきたいと思います。」

酪農業界に目をやりますと、色々な問題やこれから乗り越えないといけない事がたくさんあり、皆様の経営でそれぞれの直面していることがあると思います。先ほど、統一綱領を3つ読み上げましたが、この札幌での大会から全国の酪友に発信して頂きたいと思い、皆様へお願いしたいことを3つ考えました。

1つ目、大会を通して仲間をつくらせていただき、元気を地元にもちかえつ



▲ 半澤委員長

ていただきたい。2つ目、その「元気を未来へ投資していただきたい。3つ目、元気を投資したあかつきには、笑顔が絶えない酪農ライフを実現していただきたい。」

今日発表される12名の方々は非常に元気がよい方々であり、その発表を少しでも自分の力にしたいとき、地元を持ち帰り、地元の酪農と一緒に盛り上げていただければ、日本の酪農の未来は明るいと思っております。そして、このことによって少しばかりの利益がでたら、その利益を次の生産のための投資に回してください。酪農情勢

は以前よりはよくなっていると思いますが、今の状況がいつまでも続くわけではありません。次への投資、例えば、新しい技術、人、そういった未来に投資して頂くことで、次へのステップが必ず訪れると思っておりま

す。ぜひ、やって頂きたいと思っています。そうしたことが酪友の皆さんの未来の笑顔や酪農業界の笑顔につながっていくと確信しています。」と挨拶がありました。

続いて、本会砂金会長より、挨拶が述べられました。

「本日、全国各地から大勢の酪友にご参集いただき、全国酪農青年女性会議とともに、第46回全国酪農青年女性酪農発表大会を、ここに開催できる事を、大変うれしく思います。また、この度の九州豪雨により、被害にあわれました会員、酪農家の皆様に、心よりお見舞い



▲ 砂金会長

を申し上げると共に、1日も早い復興を祈念申し上げる次第であります。昨

今の酪農情勢については、経営面の厳しさだけではなく、心理的にも不安を感じさせる状況が続いており、そのことが、酪農家戸数の減少につながっていると考えますが、これまでもこの酪農業界には過去様々な課題がふりかかり、そのひとつひとつを先人たちが乗り越えてきたように、我々も、今後の我が国酪農の生産基盤の維持・拡大のため、次代を担う若き後継者が希望をもって経営継承できるような環境作りに尽力していかなければならないと思っております。そのことが、国民に安全安心な国産牛乳を供給することにつながることも、我々も、酪農という自分たちの仕事に対して誇りを持つことにもつながると信じています。

本日は全国から選ばれた12名の発表者の優良事例を学べると共に、日頃会うことがなかなかかなわない全国の仲間たちと、大いに語り合うことができる

絶好の機会です。今日、明日と、本大会の開催を通じて得られたものが、必ずや皆様方の明日からの活力となりますことを、心よりご祈念申し上げます。」

続いて、ご来賓として最初に、農林水産省生産局 畜産部畜産企画課 課長補佐 古庄 宏忠氏より祝辞を頂きました。

「最近の我が国酪農をめぐる情勢は、牛乳・乳製品の消費が順調に推移しており製品の消費が堅調なことに加え、飲用牛乳についても、その健康効果が見直されるなど、消費が向上しつつあります。また、輸出について、原発事故に伴い実施されていた相手国の輸入規制の撤廃・緩和の進展や近隣国の経済発展が手伝って、粉ミルクやL・牛乳などが順調に伸び、昨年の輸出額は前年に比べて31%増の約126億円に達したところではあります。このような需要の高まりもあり、乳価も順調に上昇していることから、酪農家の皆様により一層生産に取り組みやす



▲ 農水省 古庄課長補佐

い環境になっていると考えています。

一方で、生乳供給については、酪農家の高齢化や後継者不足による離農が進んでおり、このような需要の伸びに対応するためには、生産基盤の弱体化を食い止め、生産を拡大していくことが喫緊の課題となっていることから、

農林水産省では昨年11月に策定した「農業競争力強化プログラム」において、酪農の生産基盤強化を位置付け、乳用後継牛の確保や自給飼料の増産、労働負担の軽減も含めた生産性の向上といった課題の解決に向けて取り組んでいるところであります。また、本年の通常国会においては、加工原料乳の生産を下支えする補給金制度が恒久法へと移行したところですが、生産者の皆様が、創意工夫を活かし、安心して生産活動に注力できるよう、引き続き、本法の目的である「畜産物の需給の安定等を通じた畜産経営の安定」の実現に向けてしっかりと取り組んで参ります。本大会は全国の酪農家の研鑽と交流を図るための大変貴重な機会であり、本日も紹介いただく若い担い手や女性の方々の優れた取組みは、経営・生産技術・地域活動への貢献等に関する重要な手本になると考えています。若い方だけでなく様々

な年代の方々が本日の発表に倣い、夢と希望を持って、生産性が高く豊かでゆとりのある酪農経営の実現に向かって取り組まれることを期待しております。」

次に、北海道知事 高橋はるみ氏より祝辞が述べられました。

「皆様、ようこそ北海道へ。第46回全国酪農青年女性酪農発表大会の北海道での開催にご尽力いただいた関係の皆様に感謝申し上げます。全国からご参加いただいた酪農家の皆様には、日々、健全な牛乳から生乳を生産し、全国の消費者に、安全・安心で栄養豊かな牛乳・乳製品を届け、我が国の食卓を豊かにされていることに、深く敬意を表します。

さて、北海道の酪農は、恵まれた自然環境の下、国内の主産地として発展するとともに、幅広い関連産業と結び付き、地域の経済や雇用に大きな役割を果たしています。全国の多くの地域と同様、高齢化や担い手不足という課題を抱えており、生産力の維持向上と活力ある農村の形成は、待ったなしの状況にあります。道では、国の事業を活用しながら、乳牛の能力を最大限發揮させる、いわゆる「乳用牛ベストパフォーマンスの実現」など、生乳生



▲北海道 高橋知事

し上げると共に、皆様におかれては、安全で優良な牛乳・乳製品の生産のため、日頃より力を尽くされていることにこの場をお借りして、深く敬意を表します。

産基盤の強化への支援などに取り組んでいます。今後とも担い手の皆さんが、これまで以上に意欲を持って営農を続けられるよう、国に万全な対策の実施を強く要請するなど、農業が将来にわたって発展していくため、全力で取り組んで参ります。本大会は、全国各地域から選ばれた12名の方々に由る優れた経営や貴重な意見・体験の発表と、それに基づく意見交換が行われると伺っております。営まれる地域や形態は違えども、必ず皆さんの経営の参考となるものが得られると思うので、ぜひ、これらの成果をそれぞれの地域に持ち帰り、いかなる国際環境・経済・社会情勢の変化にあっても、更なる高みを目指して取り組んで頂きたいと思います。」

最後に札幌市 経済観光局 農政部長 長谷川 正彦氏より祝辞が述べられました。

「全国各地からお越しの皆様、ようこそ札幌へ。市民と共に心から歓迎申



▲札幌市 長谷川部長

北海道における近代酪農の発祥の地である本市におきまして、発表大会が開催されるのは6回目ということで、今回もこのように盛大に開催されますことを大変光榮に存じます。また本会が日本の酪農業のさらなる発展につながるものと大いに期待しているところです。この大会は、酪農経営に関する研究成果及び酪農に係る意見や体験等の発表の場とお聞きしております。発表者の皆様は、各地区で選ばれた方々であり、それぞれの夢や想いがたくさん詰まっているのみならず、残念ながら発表がかなわなかった皆様の想いも受け継ぎつつ、昨年に負けず劣らず素晴らしい内容の成果や意見、体験が語られることと、大いに期待しております。さらに、この機



▲土山希望さん

会に全国各地の方々と大いに交流を深められますことを願うとともに、心に残る思い出をお持ち帰りくだされば幸いです。」

主催者ご来賓の挨拶に続き、当会議の役員、委員として長年に渡り会議活動に参加され、昨年の改選において役を退いた方への功労者表彰がありました。今年度は、東北会議の佐藤ひろ子前委員、西日本会議の林浩太郎前監事が対象となり、半澤委員長より感謝状と記念品が授与されました。

開会式終了後、地域の代表者各6名による酪農経営発表と酪農意見・体験発表が行われ、その間に第44回らく



▲表彰式にてインタビュー



▲表彰式

のうこどもギャラリーの表彰式が行われました。当日は特選に選ばれた山口県美祢市の土山 希望さんをお母様と共に会場にお招きし、半澤委員長から賞状と記念品が授与されました。授与後の全国会議堀山委員からのインタビューでは、希望さんご一家は美祢市において酪農を営んでおり、今回の作品は自宅で飼養している牛を描いたこと等を話してくれました。最後に牛乳はどのくらい好きですか？と質問されると、希望さんは牛乳が大好きであることを手を大きく広げたゼスチャーで表し、会場からは大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

2日目には、第8回酪農いきいきフォトコンテストの表彰式がありました。この企画は、牛乳の生産現場を消費者に知ってもらうことを目的として開催しており、各地域より寄せられた応募作品53点を全国大会で掲示し、参加者投票による審査の結果、西日本酪農青年女性会議 山縣千晶さんの作品「どうぞ！」が見事「特選」に選ばれました（本号表紙掲載）。当日はご本人も来場されており、半澤委員長より記念品が贈呈されました。

続いて来場者から両部門発表者への質疑応答が行われ、例年よりも多く集まった質問に一つ一つ丁寧に答えられていました。

休憩をはさみ経営・意見体験発表の部の審査結果が発表され、酪農経営発表の部の最優秀賞には東北酪農青年女性会議代表の田中進さん、酪農意見・体験発表の部の最優秀賞には北海道酪農青年女性会議代表の田村純子さん、また、経営発表の部において審査員長特別賞に九州酪農青年女性会議代表の長友佳奈美さんが選ばれました。

それぞれの部の審査講評・表彰が行われ、小笠原和美副委員長による大会宣言朗読の後、砂子拓也監事による閉会の辞をもって全日程を終了しました。

酪農経営発表の部 審査講評



伊藤 房雄 審査委員長

今回発表された6名の方々は、それぞれ異なる立地条件の中で、地域特性や地域資源を上手に活かしながら、最新技術を導入し、酪農経営の安定性と収益性の確保に努力しているだけでなく、自給飼料の確保、堆肥の利活用、さらには地域活動にも熱心に取り組んでいる様子をうかがい知ることができ、審査委員一同大いに感心致しました。審査の中で特に印象に残った点、そして今後さらに期待したい点について、発表順に講評します。



若者目線で経営改善

中部酪農青年女性会議
わたなべ けんじ
渡辺 賢司さん

渡辺牧場は、経産牛110頭、未經

産牛110頭を飼養されています。

賢司さんは、平成14年に帯広畜産大学を卒業後、飼料会社就職したのち平成22年に実家に戻り就農されました。当時は、ご両親が露地野菜部門に注力しすぎて牛の管理が疎かになり、乳房炎の多発と死亡する子牛が多く、牧場は様々な問題を抱えていました。そこで賢司さんは、まず子牛の管理に取り組み、牛の観察に力を注ぐことで、下痢や肺炎の早期発見、治療に繋げ、現在では下痢による診療を受ける子牛は1頭もいなくなりました。乳質改善にも積極的に、外国人実習生の教育を徹底することで作業の平準化を進め、3回搾乳により高い生産性を維持し利益確保に努めています。併せて、地域の若手酪農家との意見交換、ガチトークを通じて餌の改善にも取り組み、個体乳量の増加を実現しています。これらはいずれも牛の観察とデータ分析によるPDCAサイクルを実行している成果で、渡辺牧場では近年クラウド型牛群管理システムを導入し、PCやスマートフォンでの個体管理を実施されています。それが分娩間隔407日と高い繁殖成績をもたらしていることは言うまでもありません。地域特性から100%購入飼料依存型酪農で展開せざるをえないが飼料費の高騰

は大きな経営のリスクとなるので、今後は、この点を十分に考慮しながら、搾乳ロボットの導入と規模拡大に取り組んでいけることを期待しております。



酪農、誰もができる 楽農へ

北海道酪農青年女性会議
せきぐち しんや
関口 真也さん

関口牧場は、真也さん夫婦とご両親、それに常時雇用の従業員1名を労働力とし、採草地78ha、放牧地12haを利用して、経産牛70頭、育成牛34頭を飼養する草地型酪農を展開しています。真也さんは、「誰でも作業ができる酪農」を常に考え、従業員、ヘルパーが覚えやすいように一つ一つの作業を簡単にするを目標としています。また、長命連産を重視し、飼養管理に常に注意を払い、採食量を最大にすることを心がけ、粗飼料を飽食させています。疾病に対する早期発見、早期治療も心がけ、健康な牛づくりを実行しています。それは、後継牛をすべて自家育成していることや、肢蹄への負担を軽減するためウレタン製の牛床マットの導入に現れているほか、単収と栄養価の向上を図るため牧草の3種混播に取り

組み粗飼料自給率100%を達成していることにも現れています。このような多岐にわたる適切な実践は、まさしく優れた経営者の証左と言えます。今後は、労働力不足に対応するため畜産クラスター事業を活用してユニットキャリアや自動給餌機の導入を予定しているそうです。それにより作業の省力化、効率化が図られることは容易に想像できることですが、それに併せて栄養量を加味した飼養管理の改善に取り組み、さらなる乳量アップの実現を期待しています。



開拓精神を受け継ぎ、酪農共同体として次世代へ継承
東北酪農青年女性会議
たなかすすむ
田中 進さん

田中さんが役員を務めている(有)雪割牧場は、経産牛250頭、未經産牛140頭、牧草地24ha、飼料畑18haの自給飼料型酪農の法人経営であります。

雪割牧場は平成12年に5戸の酪農家が共同で設立した農業生産法人ですが、そこに至るまでにはメンバー全員で徹底的な議論を重ね、約8年の歳月を費やしています。また、雪割牧場の現在の役員は皆、入植2代目、3代目の世代

であり、先人が苦勞して土地を切り開き、農場を築き上げてきた姿をしつかりと目に焼き付けてます。そしてその精神が、雪割牧場の経営理念として大きな柱となっています。

雪割牧場の特徴としては、地域の離農跡地を積極的に借り入れて低コストの自給飼料生産を実現しているほか、地域のコントラクター作業を受託している点、良質な堆肥生産を起点に耕畜連携を構築している点、エコフィードを積極的に利用している点、規模拡大とともに「見える化」による牛群管理に積極的に取り組み、役員と従業員の全員で牛の観察ができるようにしている点、等々がありますが、なによりも地域農業の発展と事業継承を意識した強い経営体づくりが最大のポイントです。

今後は、将来の経営継承に向けた従業員教育が喫緊の課題と思われます。



**地域に根ざす酪農経営を目指して
～父からのバトンをうまく受けて～**
関東甲信越酪農青年女性会議
たけひろ
関 岳彦さん

関牧場は、岳彦さんご両親の3名

の労働力で、河川敷の採草地約7ha、飼料畑約5haを利用して、経産牛40頭、育成牛10頭を飼養しております。

関牧場は、粗飼料自給率が82%という自給飼料型酪農を実現しておりますが、その最大の特徴は、岳彦さんのお父様が築き上げ、岳彦さんも忠実に踏襲しています。すなわち牛舎のみならずすべてにおいて清掃と整理整頓を徹底している点にあります。現地審査に伺った審査員も、飼料会社から茨城県初の良質生乳生産牧場として表彰されたことも納得のいく牧場と感心しておりました。

中学生の頃から酪農に真摯に取り組むお父様の背を見て、将来は就農しようと思った岳彦さんは、その後東京農業大学を卒業し、那須千本松牧場で2年間の研修を経て実家に戻りました。それから約8年、まだお父様を越える経営者になっておりませんが、飼養管理システムを導入し、発情発見や疾病治療、簡易乳量予測等の個体管理にそれを活用して、少しずつ自分の色を出し始めております。今後は、育成牛舎の改築と全頭自家育成、安定した後継牛の確保、自給飼料の品質向上等、具体的な近未来の目標を掲げており、是非その早期実現を期待しております。



受け継いで、その先へ
西日本酪農青年女性会議
まつながつよし
松永 毅さん

松永牧場は、毅さんご両親の3名の労働力で、経産牛45頭、未經産牛8頭、育成牛10頭を飼養しております。飼料作付面積は約8haで、イタリアン、ミレットを作付けしてサイレージを生産しているほか、地域の耕種農家との連携で生産されたWCSを活用して資源循環型酪農を実現しています。また、ドロマイトの散布による暑熱対策や、雌雄選別精液の活用、受精卵移植による和牛F1の生産にも積極的に取り組んでいるが、最大の特徴は(有)大分県酪農振興公社から調整済みTMRを購入している点にあります。TMRの活用により、搾乳牛1頭当たり乳量の増加や乳飼料比の改善、飼料調整時間の短縮も実現できました。このほか、関係機関との年2回の経営検討会は、第三者からの視点で牧場の課題を抽出する貴重な機会となっており、今後も関係機関の指導、助言を飼養管理環境の改善に活かしたいと

考えておられようであります。

今後の目標として安定的な酪農経営の実現を掲げているが、ご両親が60歳代後半となってきたことから、労働力の確保や省力化技術の導入を検討する必要があると思われる。



未来につなげたい酪農経営を
目指して
～「酪農家だから」を言い訳にしない～
九州酪農青年女性会議
ながとも かなみ
長友 佳奈美さん

長友牧場は、佳奈美さん夫婦とご主人のお母様の3名の労働力で、経産牛53頭、育成牛10頭を飼養しております。飼料作物は、約15haにイタリアンとトウモロコシを作付けし、イタリアンは植え付けから収穫まで自家で、トウモロコシは植え付けと収穫を地域のコントラクター組織に委託し、省力化の実現と良質のサイレージを確保しています。

長友牧場の最大の特徴は、マックスフィーダーとキャリロボの導入により、作業労働時間を大幅に縮減して「ゆとり」を実現している点にあります。それにより長友牧場では、牛の観察と管理を充実させるとともに、デー

タに基づく個体管理を徹底して生産性を向上させております。また「ゆとり」の実現は、様々な地域活動への積極的な参加を可能にするとともに、毎年の家族旅行の実現にも貢献しています。さらに御影石の飼槽に交換したことも作業効率の改善に寄与しており、このように仕事と生活の両面に「ゆとり」をもたらしている長友牧場の取組は、まさに家族酪農経営の模範と言える優良事例であります。

今後の課題として悪化している繁殖成績の改善を掲げている、すでに関係機関と連携して早期の妊娠鑑定や和牛受精卵移植に取り組んでおり、そう遠くない将来にきつと成果が出てくるものと確信しています。

以上、今回の発表者6名の経営はいずれも高い技術力を有する優れた経営であり、その優劣を判断することは容易ではありませんでした。その中でどのような基準に重きを置いて評価をすればよいのか、審査員一同大いに悩み、議論を重ねました。儲かる酪農、収益性と生産性の高い酪農はもちろん必須ですが経営の安定性、発展性の重要性は言うまでもありません。衛生的で高品質な生乳生産はもとより、自給飼料依存度の高い資源循環型酪農の実践も大切

です。そして、次世代の担い手にとって、「ゆとり」ある酪農を実現している経営は魅力的です。しかし、それらと同等かそれ以上に重要と思われる要素が、高い収益性と発展性を担保する先進技術の習得と、それを上手に活用して高いパフォーマンスを実現するマネジメント能力であります。特に、近年の酪農経営の喫緊の課題である労働力不足、後継者不足の解消には、法人経営か家族経営かという経営形態の違いにかかわらず、省力化技術および効率化技術の導入は不可欠です。それによって、収益性の向上、目標とする所得の獲得「ゆとり」ある酪農が実現できるからです。さらには、そのことが新たに経営を引き継ぐ者を誕生させ、持続性の高い経営の確立につながっていくからであります。

このような視点で改めて今回の6名の発表内容を振り返ってみたとき、そこにはいずれの発表でも省力化技術や効率化技術の活用とそのパフォーマンスを確認できましたが、自らの酪農経営を次世代に継承していくことを明確に掲げ、さらには地域の中で自らが果たすべき役割をきちんと認識して、それを着実に実践していた点において、雪割牧場の取組が他の5つの取組と比べて1歩抜き出ておりました。雪割牧場

の技術レベルと生産性、所得水準が高いことは言うまでもありません。また近い将来、雪割牧場が1,000頭を超える飼養頭数のメガファームとなることは想像に難くありませんが、そこでは今日のメガファームの弱点である長命連産を実現する可能性が高いことも評価されました。

以上から、今回の審査では、東北酪農青年女性会議の田中進さんの発表を最優秀とさせていただきます。

なお、今回の発表でとても素晴らしいプレゼンテーションを披露してくれたことはもちろんのこと、省力化技術と効率化技術の導入により仕事と暮らしの両面に「ゆとり」を生み出し、家族経営と家庭生活に豊かさの好循環をもたらしている長友牧場の取組は、多くの酪農に夢と希望を与えてくれる模範的实践であることを高く評価し、九州酪農青年女性会議の長友佳奈美さんに審査員長特別賞を授与することとしました。

最後に、会場にお越しの皆様におかれましては、6名の方々の発表をお持ち帰りいただき、それぞれの経営や地域の酪農発展のためにご活用していただければ幸いです。

(酪農意見・体験発表の部は次号に掲載します)

地域の紹介

伊勢原市は、神奈川県ほぼ中央に位置する市です。1960年代前半までは純農村地帯でしたが、1960年代後半から宅地開発が進み、現在では東京近郊のベッドタウンとしての側面が強いですが、現在でも、稲作、果樹作、酪農などの農業も盛んな市です。酪農においては神奈川県内で一番盛んな地域になります。



荒井裕人さん

今回は、神奈川県伊勢原市(有)荒井牧場の後継者荒井裕人さんにお話を伺いました。

今回ご紹介する(有)荒井牧場は、かながわ酪農業協同組合（長谷川行夫代表理事組合長）に所属し、経産牛32頭、育成牛23頭を飼養し、デントコーンを共同で14町作付しています。労働力としては経営主の荒井新吾さん、奥様のいづみさん、後継者の裕人さん、祖母の力ヨ子さん、従業員1名で作業をしています。経営主の新吾さんは、かながわ酪農業協同組合の副組合長、共進会の同志会会長といった、



搾乳牛舎



育成舎

役員を多数兼務されていることもあり、主に畑作業担当で、搾乳・給餌・繁殖等の飼養管理の作業は、後継者の裕人さん担当です。

就農までの経緯と現在の取り組み

裕人さんは神奈川県立中央農業高等学校を卒業し、神奈川県立かながわ農業アカデミー（農業者研修教育施設）に進学、卒業後は県外の牧場で半年程実習を行いました。実習後は就農するかを検討していましたが、近隣の同級生（若手後継者）の一声もあり就農しました。

現在の裕人さんの取組みは、後継牛確保と「伊勢原牛乳」（伊勢原産牛乳のブランド化を目指すプロジェクト）です。

具体的に、後継牛確保はただ何でも種を付けるのではなくて、「年間何頭」と自分で目標を決めて全て、超音波で雌雄判別まで行っており、頭数が確保できたらF1牛にするようにしています。F1牛の価格が高騰している状況ですが、目先の価格には飛びつかず、自分がこの先酪農をやっていく中で「後継牛は必要だから確保するようにしている」とおっしゃっています。 (有)荒井牧場は育成牛を預託にはほとんど出さず、自家育成を行い共進会にも多数出品しています。



哺育舎



飼料畑

若手後継者の 本音

vol.27

【経営概況】

所 属 かながわ酪農業協同組合（長谷川行夫代表理事組合長）
家族構成 裕人さん、お父さんの新吾さん、お母さんのいつみさん、お祖母さんのカヨ子さん
飼養頭数 経産牛32頭 育成牛23頭

酪農も「継続は力なり」

「伊勢原牛乳」は、伊勢原産牛乳の認知度を広めるためにPR活動をおこなったり、毎月、定例会を開催。また良い牛乳を出荷するために乳脂肪、体細胞数等、乳質改善にも積極的に取り組んでいます。

就農して感じる酪農について

就農して感じるものが2つあります。1つ目は「農場における人材不足」です。

管内にヘルパーも少なく、必要な時に利用できなかったり、取り合いになっている状況が続いています。人と仕事をするのが目標でもあったため、今年度になつて従業員を雇い、外に出る機会も増やし、効率よく作業をすることが出来るようになりました。自分が酪農家だから、酪農は「牛だけでなく人と仕事する」と思っているのです。人材不足が解消されたら良いと感じています。2つ目は、目先の事で物事を判断してしまつ方もいますが、長期的に物事を判断するようにし、「牛乳を搾る、乳量で稼ぐのが酪農家」だと思っていることです。

今後の目標について

今年度中に古い乾乳牛舎を壊して哺育牛舎（哺乳口ボット導入予定）と搾乳牛用のフリーストール牛舎（現在は繋ぎで飼養管理）を増築する計画です。そのために現在、従業員も1人雇用している状況です。

今後は、搾乳頭数を最低30頭、将来的には50頭搾乳まで増やすことです。頭数増やす、搾って乳量を増やして、家族と従業員が喜ぶような牛群と牛乳を生産していきたいと思っています。それで最後は酪農のイメージアップを目標としていきたいです。

全国の若手後継者の皆さんへ 一言！

酪農は続けることに意味がある！「行き詰ったら終わり。」ではなく、誰かに相談することが大事。周りには助けてくれる仲間もいるだろうし、恥ずかしがらずに自分からドンドン聞いて、コミュニケーションを図り改善点を見つけた方が今後のために繋がると思う。1人で「酪農」をやっている訳ではないので頑張っていきましょう！



DMSシステム

平成28年集計結果

1 DMSシステム参加農家が
478戸となりました

DMSシステムは、今年で10年目を迎えています。年々参加者が増加し、平成29年3月末日時点では478戸となりました。

図1は参加農家戸数の推移をプラン別に集計したものです。「Aプラン」は本会が紹介している会計ソフト（「e酪農経営」）を酪農家自身が入力するプラン、「Bプラン」は記帳代行を依頼するプラン、「Cプラン」は記帳代行に加え申告書の作成を税理士に依頼するプランとなっています。「それ以外」はDMSシステムのデータベースを利用した経営分析及び経営相談の依頼を受けた戸数を表しています。

昨年から今年にかけ、①補助事業を利用した規模拡大、新規牧場の設

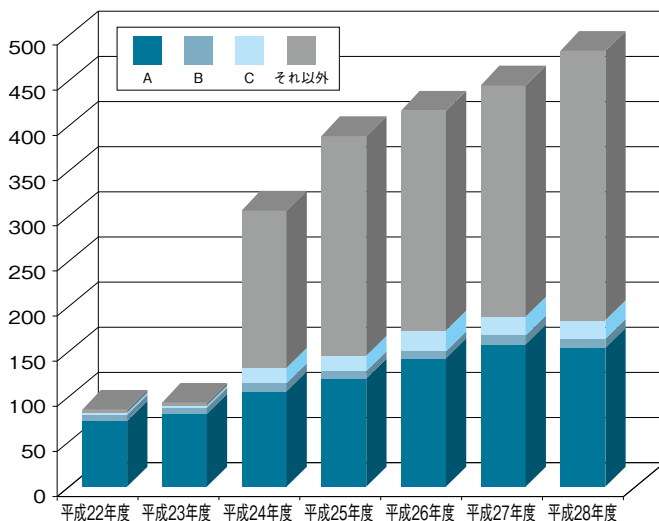
立相談、②経営継承や法人化に関する相談が増加しています。DMSシステムではこれらの課題に対し、「酪農経営シミュレータ」を利用した牛群動態や資金繰りの予測を行っております。

今後もDMSシステムは、単なる経理処理のサポートだけではなく、経営者の重要な意志決定をサポートしていきます。

2 酪農経営の状況

表1は平成27年と平成28年のDMS参加農家の平均値を比較したものです（単位は経産牛1頭あたりに換算してあります）。平成27年までは東北大地震の影響を考慮し、東北地域のデータは集計しておりませんでしたが、平成28年より当

図1 DMSシステム参加農家戸数（H29年3月末時点）



	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
A	76	81	106	120	142	151	153
B	5	7	9	8	8	12	9
C	1	2	17	17	17	19	21
それ以外	2	3	174	243	249	265	295

該地域もデータに加えることとし、全国150戸のデータを用いた集計結果とさせて頂きました。

※従来の集計方法と比較した結果、母集団の性質に大きな変化は見られませんでした。

(1)家族所得は33,177円／頭増加

経産牛1頭あたりの家族所得は平成28年208,484円、（前年比+33,177円／頭）となりました。所得の増加は、総収入が35,664円／頭増加したのに対し、総支出が2,487円／頭の増加に抑えられたことによります。以下、家

族所得の増加要因について見ていきましょう。

(2)肉用子牛売上高が大幅に増加

生乳売上高は7,053円／頭増加、肉用子牛売上高は相場が堅調に推移したことを受け40,228円／頭増加しています。ちなみに、肉用子牛売上高を4年前のデータと比較してみると約2.5倍の金額になっており、総売上高に占める肉用子牛の割合が年々高まっていることが分かります。

乳用牛への黒毛和種の交配状況を

表1 酪農経営の変化

経産牛1頭あたり(円)

	H27	H28	差
牛群動態/主な指標			
経産牛頭数	61	63	2
更新率	26.5%	27.1%	0.6%
死廃率	9.7%	10.1%	0.4%
乳飼比	55.8%	51.1%	-4.7%
家族所得率	13.1%	15.9%	2.8%
総収入	1,273,694	1,309,358	35,664
生乳売上高	977,497	984,550	7,053
肉用子牛売上高	109,657	149,885	40,228
廃用牛売上高	39,701	40,729	1,028
その他売上高	31,300	23,413	-7,887
雑収入	115,539	110,781	-4,758
総支出	1,098,387	1,100,874	2,487
雇人費	37,457	33,109	-4,348
飼料費	538,932	502,061	-36,871
診療衛生費	26,777	27,026	249
動力光熱費	47,688	46,765	-923
共済掛金	32,388	31,831	-557
修繕費	39,025	40,936	1,911
支払利息	4,381	3,737	-644
減価償却費	145,763	168,472	22,709
その他経費	225,975	246,937	20,962
家族所得	175,307	208,484	33,177
フリーキャッシュ	245,334	305,805	60,471
借入金償還額	91,923	56,671	-35,252
キャッシュ残 (家計、税金支払い、再投資に利用)	153,411	249,134	95,723

注1) 集計農家は、平成27年までは東北大震災被災地域を除いた53戸、平成28年より全国150戸。

注2) フリーキャッシュ＝家族所得＋減価償却費－育成振替高＋廃牛売却原価である。

注3) その他経費は「種苗費」「肥料費」「農具費」「作業衣料費」「賃借料」「諸材料費」「荷造り運賃手数料」である。

見ても、全国で33.5%、都府県46.5%、北海道22.5%となっており、依然として高い割合を示していることが分かります（日本畜産人工授精師協会平成29年6月20日付）。多くの酪農家の方々は、この相場が「いつまでも続くわけではない」という意識を持っているものの、副産物収入への期待の高さは根強いものを感じます。

(3) 飼料費高騰が一段落

輸入飼料価格が落ち着いてきたため、飼料費は△36,871円/頭減となりました。生乳売上高も増加していますので、乳飼比で比較してみると、総支出を生乳売上高が上

ても平成27年55.8%↓平成28年51.1%と△4.7%となり、生乳生産効率は大きく向上したことが分かります。

よって、平成28年の酪農所得は、「肉用子牛売上高」と「生乳生産効率の向上」が両輪となり、増加したと言えます。

(4) 投資が活発化

平成26年以降、補助事業を利用した機械類の更新、牛舎の増築等が進んでいます。酪農意欲の高まりを感じますが、資金繰りを充分検討し、取り組んでいきましょう。

(5) 投資計画を作成しましょう

酪農経営をキャッシュフローで見ると、家計で利用できる現金が

95,723円/頭増加したことが分かります。余剰資金があるときは、①運転資金の確保、②生産性向上を伴わない投資（堆肥舎等）、③イミングです。

仕事に対するモチベーションを高めるためには、乗用車の買換も効果的です。ただし、上記の①③の後に検討しましょう。投資は、優先順位と投資額の決定が非常に重要です。中期的な投資計画作成をお薦めします。

3 DMSシステムはSaaSに移行中です

DMSシステムで紹介している会計ソフト『e酪農経営』は平成26年からSaaS化を進めています。SaaS化とは、インターネットで利用できるソフトのことで、データはインターネット上に保存されることになります。個人情報保護、複数の同時ログインが可能になることからサポートや利便性がさらに厚くなります。

今年もDMSシステムにご注目ください！

見と歩紀

No. 291

古田幸人牧場
岐阜県中津川市

経営発表から10年、
これからも自分の酪農を極める

地域の紹介

今回紹介する古田幸人牧場は、岐阜県中津川市にあります。

中津川市といえば木曽路が有名です、馬籠などの歴史ある街並みが残っています。

食べ物では「栗きんとん」発祥の地でもあります。

また木曽川沿いには、苗木城という岩山の上に巨岩を使って築かれた国指定史跡となっている山城の跡もあり、多くの城愛好家が訪れています。

古田幸人牧場は市街地から北へ車で20分ほどの所にあります。近くには付知川が流れており、キャンプや鮎釣りなどが行われる自然が豊かな所です。

このような中津川市ですが、2027年にはリニア中央新幹線の駅が出来る予定とのことです。

古田幸人牧場の所属する美濃酪農農業協同組合連合会（朝日修代表理事会長）は生乳出荷戸数57戸、年間生乳生産量17,814t（平成28年度）となっています。



▲ 古田幸人牧場近景

岐阜県中津川市



古田幸人牧場の概要

古田幸人牧場は、昭和26年におじいさんがトマト栽培のかたわら、子牛1頭を導入したところから始まりました。その後増頭し、お父さんの



▲ 苗木城跡



▲ 付知川



▲ 古田幸人牧場遠景



▲ 給餌作業

ときに現在の最大34頭入るつなぎ牛舎を建設しました。

幸人さんは4人兄弟の長男で、現在6人家族（祖父母、父母、本人、妹）で暮らしています。

古田幸人牧場では酪農のほか、米や野菜などの栽培も行っています。酪農はご両親と幸人さんで行っています。飼料・飼料給与・飼養管理など中心部分は幸人さんが行っています。

現在、経産牛は28頭で、平成28年度の年間生乳生産量は294tです。乳成分は、乳脂肪3・96%、

配合飼料はNon GMO原料のものを給与し、出荷した生乳は美濃酪農農業協同組合連合会の牛乳工場で加工され、非遺伝子組み換え牛乳として流通しています。



▲ 飼料タンク

無脂固形8・85%となっています。

自給飼料は、近隣の農家3戸で、休耕田や転作田を利用してデントコーンの栽培を行っており、敷地内のバンカーサイロで調整しています。そのほかイタリアンライグラスも栽培しており、輸入粗飼料と併給しています。

育成牛は現在13頭いますが、県の育成牧場へ全頭預託しています。

現在種付けは、育成牛には和牛受精卵を付けていますが、後継牛が少ないこともあり経産牛にはホルスタインの精液を付けています。雌雄選別精液ではないとのことですが、結果的にメスの割合が多いそうです。

幸人さんによると、この地域の酪農の特徴は、家族経営で自給飼料を作る酪農スタイルであるとのことです。

経営発表から10年

古田幸人さんは、10年前の平成19年7月に宮崎県で開催された第37回全国酪農青年女性酪農発表大会で、中部会議代表として経営発表を行っています。当時は25歳でした。

あれから10年が経過しましたが、当時経営発表をしたことでどのような変化が起きたか尋ねたところ、「僕の場合は経営発表でしたが、それによって、地域を超えたつながりが出来たことがよかったです。大きな財産になっています」とのことでした。

また、経営発表の経験がこの10年間の酪農人生に与えた影響について

聞きましたところ、基本的に発表当時から自分の酪農スタイルは変わっていないとしつつも、「全国のいろいろな経営のやり方を知ったことで、日々の作業の中で、自分のやり方を見つめ直すようになった」とのことです。

古田幸人牧場のこれから

古田幸人牧場の将来についても話を伺いました。

規模拡大については堆肥処理がネックとなっており難しいとのことでした。

また労働力については、現在は幸人さんが中心で仕事を回しています。が、おとしご両親が体調を崩し入院されたときに1人で作業する期間が長く続いたこともあり、労働力の確保も考えねばならない時期に来ているそうです。

ご本人としてはさらに進めて、ゆとりの酪農、スローライフを目指したいそうです。

これらのことから、すでに数年前から取り組みを始めていることがあります。同じ出荷乳量を少ない頭数で実現するための牛群改良です。サイズの大きい牛群を作り、共進会で

の活躍、その先に1頭当たり出荷乳量・所得の増加を見据えています。古田幸人牧場の搾乳牛舎の牛床はもともと広く設計されており、まだまだ大きい牛を飼える環境にあります。幸人さんは、今の仕事が好きで、ほかの仕事は考えられないと言います。「これからも酪農一本で行く、長命連産と高泌乳で酪農を極めた」とのことです。

地域活動

経営発表の後、幸人さんは6年ほ

ど前に地域の青年部の会長に就任したことをきっかけに、県の酪農青年女性会議委員長、中部酪農青年女性会議委員などを歴任されました。今年7月に後進に道を譲ったところでもあります。が、まだまだ年齢も若く、これからの地域での活躍が期待されます。

また幸人さんは、昨年岐阜県で開催された第19回全国農業担い手サミットに合わせて結成された県内の酪農就農応援隊のポスターのモデルも務めています。

夢をさけぶ

そんな幸人さんですが、先月、札幌ビューホテル大通公園にて開催された第46回全国酪農青年女性酪農発表大会では、懇親会のアトラクション「北海道で夢をさけぶ」の中部会議代表として、ステージで熱い思いを絶叫しました。

何と叫んだか?・・・答えは当日会場で見撃された方にお聞きください。



▲ 酪農就農応援隊のポスター



▲ ステージ上で夢をさけぶ幸人さん

**仙 台
支所発**
**「日本酪政連東北ブロック協議会意見交換会」
開催される**

日本酪農政治連盟東北ブロック協議会（会長：佐々木勲日本酪政連委員長）は、去る7月20日(木)、仙台市内で農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課の信戸一利生乳生産需給係長を招き、「酪農諸問題に関する意見交換会」を行いました。

今回は、畜安法に恒久的な制度として位置付けられた生産者補給金制度と、大枠合意が見られた日EU・EPAについての意見交換がなされました。

信戸係長は、『省令で定める仕組みを9月頃には提示し、広く皆様の意見を伺いたい。平成30年1～3月には生産者と農協等が販売契約を締結し、4月からは新しい契約の下に生乳販売が開始されることとなる』と今後の流れを示しました。

意見交換の中で、集送乳調整金に関しては『2～3円程度の範囲で全国一律と想定しているが、年内に全国において調査を行い算定に反映させる』としており、『地域毎で集乳経費の格差がある中、一定の範囲内に収まっていればいいが今後均していく必要がある

ところもあるだろう』と述べました。

多くの意見交換がなされましたが、新たな制度で始まることを受け、生産者側の強固な体制作りを再認識した意見交換会となりました。（I.M）



▲ 佐々木会長


**福 岡
支所発**
**「佐賀県酪農婦人部連絡協議会親睦ボーリング大会」
開催される**

7月4日(火)佐賀県酪農婦人部連絡協議会（原口真理子会長）による親睦ボーリング大会が武雄市「メリーランドタケオボール」にて開催されました。

台風で中止も予想された今回のボーリング大会でしたが、酪農家及び関係者約40名のやる気が台風の脅威を退け、無事開催に至りました。同会議の中島副会長の開会宣言の後、原口会長より主催者挨拶、JAさが畜産総合センター前田次長、及び全酪連福岡支所長谷川課

長代理より来賓挨拶があり、松本敬子さんの選手宣誓ののちボーリング大会が開始されました。酪農家同志の深い交流がなされ、活気のある大会となりました。

このような大会への参加は、楽しいことはもちろん、情報の共有や結束の強い団体をつくるきっかけになり、心の支えとなることでしょう。皆さんの周囲にはどのようなつながりがありますか？ぜひ参加してみてください。（U.T）



▲ 会場風景



▲ 原口真理子会長

2017年度 全酪協会の海外酪農研修



ロイヤル・ウィンターフェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修 7日間



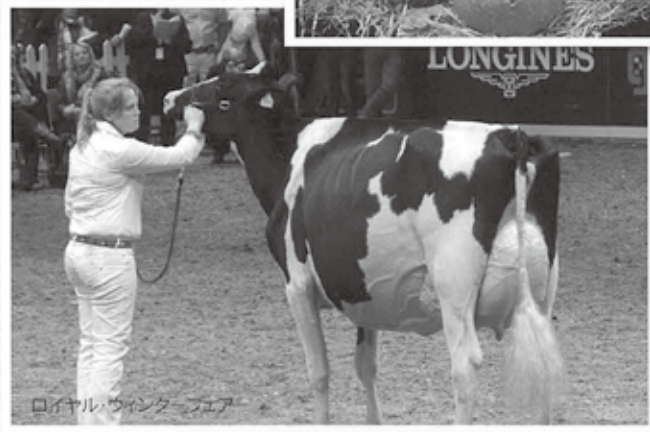
ナイアガラ

旅行期間

2017年11月8日(水)～14日(火)

※ロイヤル・ウィンターフェアの日程が未発表のため出発日など変更になる可能性があります。

米国の酪農事情やカナダの
大型牧場を知る絶好の機会。
ナイアガラの滝や、
サンフランシスコも訪れます。



ロイヤル・ウィンターフェア



ヒルマーチーズ工場

お問い合わせ

企画・監修

一般社団法人 **全国酪農協会**

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-20(酪農会館ビル)

TEL.03-3370-5341 FAX.03-3370-3892

E-mail: ryokou@rakunou.org (担当: 飯田)

旅行企画
実施

通 日通旅行

※掲載写真はすべてイメージです。
※撮影時のアングル、天候などの諸条件により、実際とは異なる場合があります。



ロイヤル・ウィンターフェア

第25回

ロイヤル・ウィンターフェア視察と 米国・カナダ酪農視察研修 7日間



カナダのトロントで開催される世界最大の酪農業博覧会「ロイヤル・ウィンターフェア」を視察。カナダと北米全域から集められた様々な農産物の展示、品評会や競売が行われ、ドッグショーや馬術競技、ロデオ等動物による競技も行われています。その中で行われるナショナルホルスタイン・チャンピオンショーを視察します。また、サンフランシスコにあるチーズ工場も訪れます。この機会に是非、米国・カナダの酪農をご覧ください。

旅行代金

408,000円 (お一人様)

一人部屋追加代金: 78,000円

*左記旅行代金の他に燃油サーチャージ: ¥7,000、成田空港施設使用料(航空保険料含): ¥2,610、現地空港税: ¥10,310、渡航手続き手数料 ¥4,320、合計目安約 ¥24,240が別途必要になります。(2017年2月17日現在) その他米国・カナダの電子渡航認証システム実費: 米国1,680円、カナダ630円、代行取得手数料各 ¥2,160(希望者のみ)が必要となります。

旅行期間 11月8日(水)～14日(火) 7日間

※ロイヤル・ウィンターフェアの日程が未発表のため出発日など変更になる可能性があります。

食事条件 朝食5回、昼食2回、夕食4回

発着地 成田空港発・羽田空港着

最少催行人員 20名

参加申込締切日 2017年
9月20日(水)

添乗員及び全酪協の世話役が同行致します。



サンフランシスコ ケーブルカー

日程	月 日	都 市 名	現地時間	交通機関	スケジュール	食 事
1	2017 11/8(水)	成 田 発 シ カ ゴ 着 シ カ ゴ 発 ト ロ ント 着	18:25 15:10 17:30 20:13	UA882 UA843	空路、トロントへ(米国国内乗継) 一日付変更線通過 着後、ホテルへ ＜トロント泊＞	機内×2 夕: ○
2	11/9(木)	ナ イ ア ガ ラ ト ロ ント	午 前 午 後 夕 刻	専用バス	ナイアガラ観光 酪農家訪問 視察後、ホテルへ 途中、トロント市内(CNタワー等)観光 ＜トロント泊＞	朝: ○ 昼: ○ 夕: ○
3	11/10(金)	ト ロ ント 終 日	朝 前 午 前 午 後 夕 刻	専用バス	ロイヤル・ウィンターフェア2017視察 (チャンピオンパレード) ＜トロント泊＞	朝: ○ 昼: × 夕: ○
4	11/11(土)	ト ロ ント 発 シ カ ゴ 着 シ カ ゴ 発 サンフランシスコ着	午 前 午 前 午 後 夕 刻	専用バス 航 空 機 航 空 機 専用バス	ホテルから空港へ 空路、サンフランシスコへ(米国国内乗継) サンフランシスコ市内観光(フィッシャーマンズウォーフ、ゴールデンゲートブリッジ等) 観光後、ホテルへ 全酪連サンフランシスコ所長による講演 ＜サンフランシスコ泊＞	朝: ○ 昼: ○ 夕: ○
5	11/12(日)	サンフランシスコ	午 前 午 後	専用バス	ヒルマーズチーズ工場視察 自由行動 ＜サンフランシスコ泊＞	朝: ○ 昼: × 夕: ×
6	11/13(月)	サンフランシスコ発	朝 前 10:45	専用バス UA769	専用バスにて空港へ 空路、帰国の途へ ＜機内泊＞	朝: ○ 機内×2
7	11/14(火)	羽 田 着	午 後		着後、送迎を終え解散	

*視察先は全て予定となります。また上記日程は、現地事情・交通機関の都合等により変更になる可能性があります。

※利用予定航空会社: ユナイテッド航空(UA) ※利用予定ホテル: (トロント)シェラトンセントラルトロントホテル、(サンフランシスコ)パーク55・サンフランシスコ・ヒルトン

機内:機内食

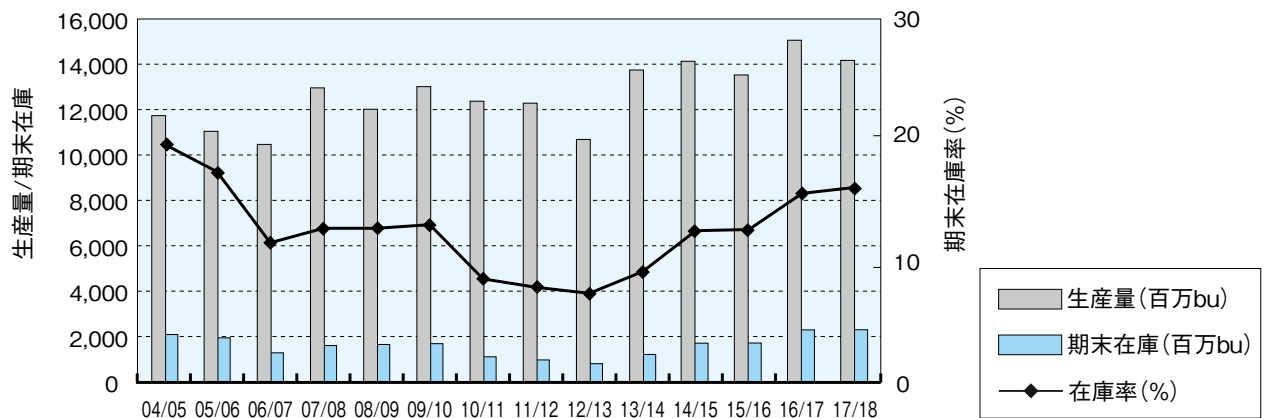


原料情勢

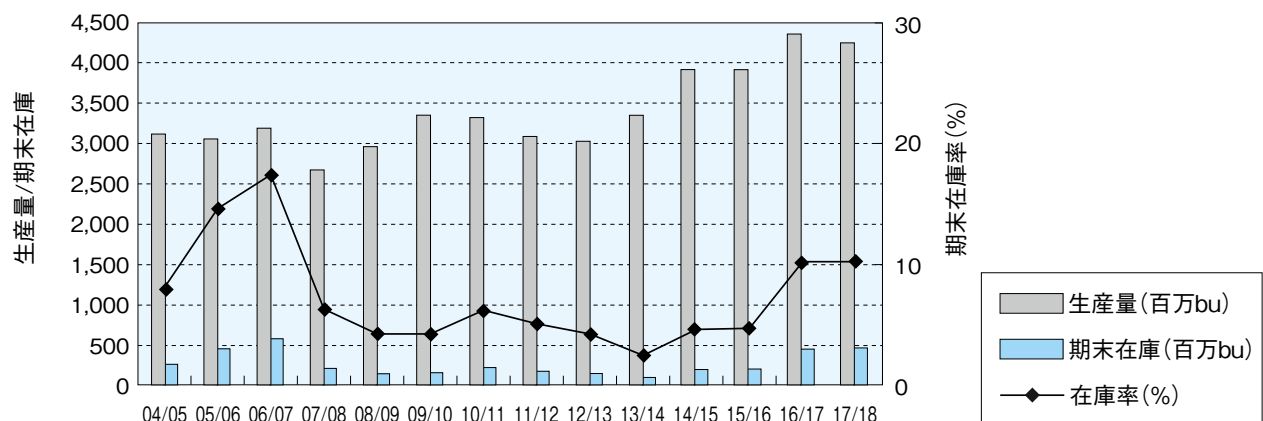
平成29年7月

7月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【16/17年産】 作付面積94.0百万エーカー、単収174.6bu/エーカー、生産量151億4,800万bu、総需要量145億7,000万bu、期末在庫23億7,000万bu、在庫率16.3% 需要面で減少し期末在庫は増加。 【17/18年産】 作付面積90.9百万エーカー、単収170.7bu/エーカー、生産量142億5,500万bu、総需要量143億5,000万bu、期末在庫23億2,500万bu、在庫率16.2% 需給両面で増加し、期末在庫は増加。
トウモロコシ 相場動向	シルキング(種実部の先端から細長い絹のような毛が出る時期)が進んでいるが、進捗率は40%と前年より▲13%となっている。作柄は高温乾燥の影響から、優良の割合が前年比で▲12%となっている。現在、米国産地では最重要である受粉期に入っており、天候の変動で乱高下する展開。シカゴ相場は生育が遅れ、かつ作柄も悪化している状況下で8月の需給予想は生産量が下方修正される見方が強い。また、春小麦の作柄が悪化しており、つられて上昇する可能性も高い。
7月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	【17/18年産】 作付面積89.5百万エーカー、単収48bu/エーカー、生産量42億6,000万bu、総需要量42億3,500万bu、期末在庫4億6,000万bu、在庫率10.9% 供給面で減少し、期末在庫は減少。
大豆粕相場動向	米国産は、前クロープの輸出需要上昇により供給面で減少、期末在庫は前月から3,500万bu減少の4億6,000万buとなった。国内産は、前年並みの発生量を見込んでいる。輸入品は引き続き中国産が中心となる。
槽糖類	【一般フスマ】7-9月期は据置。小麦の挽砕量は例年並みで推移するものと思われるが、グルテンフィードが値上がりとなった事から需要の増加も想定され、需給は引き締まる可能性もある。 【グルテンフィード】夏場に向けてスターチメーカーの稼働は上昇しているが、輸入の中心となっている中国品は中国内の補助金廃止等の影響を受けて高止まりしている。このことから輸入数量の増加は見込み難く、需給は更に引き締まる事が予想される。
海上運賃	南米東岸積み穀物を中心に引合いが旺盛となり、強地合いの展開。例年に比べブラジル産トウモロコシの積み出しが早く、7月に日本向けに出向する本船もある。需給動向では中国政府が石炭輸入を減らす施策を打ち出しており、荷動きの鈍化が懸念される。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成29年7月

北米コンテナ船 フレート	ごく一部の船社から8月のGRI（海上運賃一斉値上げ）の通知が出ていますが、多くの船社では、年明けから今春のようなGRIの動きはありません。しかしながら、北米からの農産物の輸出が増える秋口に向け、海上運賃のさらなる修復の動きが出る可能性はあると考えられます。
ビートパルプ	【米国産】新穀の作付は5月中旬で終了しています。作付後の生育状況は地域によってばらつきはありますが、総じて過去5年の平均程度の水準で推移しています。一方、作付面積は昨年比で34,000エーカー減少しています。
アルファルファ	【ワシントン州】主産地コロンビアベースンでは1番刈の収穫が終了し、南部の一部圃場では2番刈の収穫が始まっています。1番刈は、多くの生産農家が収穫開始時に天候の回復を待って作業を開始したため、収穫期前半は降雨被害が少なく進捗しました。その後、5月末の降雨以降、3～4日毎に降雨があったため、全体としては例年並みの50～60%程度の雨あたりが発生しています。多くのサプライヤーは降雨被害が70～80%に及んだ昨年、一昨年に比べると、今年の作況は良好と評価しています。産地価格については、カリフォルニア州南部の相場上昇および米国内酪農家が積極的に高成分の上級品の買付を進めている影響で、特に上級品において、昨年よりも強含みで取引が行われています。
	【オレゴン州】南部クラマスフォールズでは気温が上がらず天候も不安定な期間が続きました。このため、収穫作業は昨年よりも2週間程遅れて6月中旬から始まりました。収穫期に入っても不安定な天候が続き、一部の地域では60～70%前後の圃場で降雨被害が発生しているようです。中部クリスマスバレーもクラマスフォールズ同様、6月中旬より収穫作業が開始されました。当地では雨あたりの被害は少なく、収穫は比較的順調に進捗しています。産地相場は国内酪農家に牽引され、他産地と同様に上昇している模様です。
	【ユタ州】1番刈の収穫は5月下旬から始まり、6月中旬に終了しております。当地域は収穫期の天候に恵まれ、降雨被害の発生もなく順調に収穫が進捗しました。産地相場については、他産地と同様に上級品については米国内酪農家からの引き合いが強く、昨年よりも強含みで新穀の取引が開始されており、既に1番刈りは国内向けで完売になったサプライヤーも出てきています。
	【カリフォルニア州】南部インペリアルバレーの早い圃場では4番刈の収穫が始まっています。当地ではすでに日中の最高気温が100F（約38℃）を超えており、いわゆるサマーヘイの発生が中心となってきています。多くのサプライヤーは低級品中心のサマーヘイが多く発生する時期を迎えても、産地相場は下がらず推移すると予想しています。
チモシー	【米国産】ワシントン州コロンビアベースンでは、6月上旬頃から刈り取りが開始されると見込まれていましたが、断続的な降雨に見舞われ、収穫のスケジュールが遅れました。5月末に刈り取りを開始した一部の圃場では、降雨の被害なく良品が収穫されましたが、これら良品に各サプライヤーの買付けが集中し、産地相場は想定よりも大きく上昇しています。エレンズバーグ周辺では天候に恵まれ、予想よりやや早く刈り取りがスタートし、現在のところ大きな降雨被害もなく順調に収穫が進んでいる模様です。産地相場については、特に上級品が高騰していますが、作柄の全容が見えていないため全体の傾向を把握するにはしばらく時間が掛かりそうです。
	【カナダ産】アルバータ州レスブリッジ周辺では、6月下旬から刈り取りが始まり、スタート当初に一部で雨あたりが発生した以降は、晴天が続き、現在概ね80%がベ어링まで終了しています。作柄は良好で、収穫されたものの多くは上級品に仕上がっているようです。一方、産地価格は他産地と同様、昨年に比べ上昇しています。新穀の船積みは7月中旬以降から随時始まる見込みです。アルバータ州中部クレモナ地区でも生育は順調なようです。早い圃場では7月初旬から刈り取りを開始する見込みとなっています。
スーダングラス	インペリアルバレーにおけるスーダングラスの作付面積報告によると、7月1日現在の作付けは約43,000エーカーと昨年同期比123%となっています。刈り取りは順調に進んでおり、6月末時点で早播きのスーダンが約80%が終了、小麦の収穫後に作付された圃場においても、刈り取りが開始されました。収穫の進捗が順調なうえ、産地相場も生産農家としては魅力的なものに回復してきていることから、多くの圃場が2番刈まで収穫すると予想されています。産地では16年産の繰り越し在庫はほとんどないため、新穀が発生次第、良品を早めに買付け出荷するサプライヤーが多くなっています。このため、買付競争も激化しており、相場は昨年に比べ大きく上昇している状況です。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 17年産は6月末時点で2番刈まで終了しています。全体の収穫進捗は例年よりやや早めで、一部の圃場では3番刈の収穫を開始しているところもあります。今のところ天候にも恵まれており、品質面では大きな問題はないようです。今後、湿度が上昇してくることから、品質への影響に注視が必要と言えます。作付面積は減少しており、6月15日に発表された作付面積は12,901エーカーと前年比85%となっています。このため、2番刈以降においても産地相場は軟化の兆しはなく、他の草種と同様、昨年に比べ高値で取引が進んでいます。自給飼料不足の韓国からの需要は引き続き旺盛で、韓国向けの出荷数量が多いサプライヤーは積極的に買付けており、産地相場に大きな影響を与えている状況です。
ストロー類	6月末頃からアニユアルライグラスやオーチャードグラスの収穫が始まっています。今後ペレニアルライグラス、その後にフェスキューの収穫が始まりますが、例年に比べて1～2週間遅いスケジュールとなっています。現地価格は16年産の不足による高騰の流れのままで推移する見込みです。今後は高騰した価格に基づいた需給バランスの動向が注目されます。
オーツヘイ	【豪州産】現在ほぼ全域で新穀の播種が終了していますが、西豪州の降雨不足が深刻化し始めています。特に西豪州北部、中部ではそれが顕著な状況です。例年では播種後、6月末頃には10～15cmの草丈になりますが、今年は2cm程度までしか生育していません。サプライヤーによっては早くも新穀が不足を懸念し、繰り越し在庫を持つ動きを見せているところもあります。このため、生産農家が抱えている在庫は徐々に価格も上昇し、特に上級品については強含みとなってきています。

人事異動

新		旧		氏 名
■平成29年8月1日付異動発令				
総務部	法務・コンプライアンス課長代理	名古屋支所	総務課長	柳 館 真 次 郎
購買部	畜産課長代理（若齢預託熊本牧場勤務）	大阪支所	三次駐在員事務所長	市 川 貴 英
購買部	酪農生産指導室課長代理	大阪支所	中四国事務所長	置 本 宗 康
購買部	分析センター長代理	東京支所	北関東事務所長	上 原 真
酪農部	乳食品課長代理	大阪支所	酪農課長代理	松 本 悟
札幌支所	道北事務所長代理	名古屋支所	購買畜産課 副審査役	末 石 光 弘
東京支所	北関東事務所長	札幌支所	道北事務所長 副審査役	大 山 幸 紀
名古屋支所	総務課長 兼 指導組織課長	名古屋支所	指導組織課長代理 副審査役	山 田 和 伸
大阪支所	中四国事務所長	購買部	酪農生産指導室 研究員	下 田 宏 二
大阪支所	三次駐在員事務所長代理	大阪支所	中四国事務所	牛 島 隆 一
購買部付外向	全国酪農飼料㈱鹿島工場 所場次長待遇	購買部	分析センター長	谷 口 隆 俊
酪農部付外向	（一社）中央酪農会議（Jミルク勤務） 本所課長代理待遇	酪農部	乳食品課長代理	近 藤 宏
■平成29年8月1日付兼務（兼務解職）発令				
購買部長 兼 分析センター長		購買部長		岡 田 征 雄
札幌支所 次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長 兼 道北事務所長		札幌支所 次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長		矢 口 正 史
名古屋支所長 兼 酪農課長		名古屋支所長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長		白 鳥 建 樹
■平成29年8月1日付昇進発令				
管理部	財務課長代理	管理部	財務課 副審査役	薄 井 康 蔵
購買部	購買推進課長代理	購買部	購買推進課 副審査役	澤 口 新 哉
東京支所	次長 兼 購買畜産課長	東京支所	購買畜産課長	蒲 田 泰 介
大阪支所	次長 兼 購買畜産課長 兼 三次駐在員事務所長	大阪支所	購買畜産課長	河 野 巧
福岡支所	購買推進課長代理	福岡支所	購買推進課 副審査役	根 岸 知 紀
狭山工場	製造課長代理	狭山工場	製造課 係長	楨 英 紀

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇄……やや弱含み ↓……弱含み

事 務 所	畜 種	相場(万円)	価格状況	管 内 状 況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	55~65	→	札幌管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計91.8%、累計で91.7%、苫小牧管内月計で96.0%、累計で96.1%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10~11月上旬の分娩腹が中心となります。7月のこの地域での乳牛市場がやや強含みとなったことや、他地域の乳牛市場が8月下旬に集中して開催されるなかで、この地域のみ8月上旬に開催されることから、この地域の市場へ購買が集中し相場が高騰する可能性があり、庭先購買価格もやや強含みで推移するものと思われます。腹内容としてはF1がメインとなっておりますが、雌雄選別腹も問合せが増えております。
	初 妊 牛	83~93	⇄	
	経 産 牛	45~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	60~70	→	根釧管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で96.5%、累計で96.3%、中標津管内月計で98.2%、累計で99.0%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、11月分娩の腹が中心の動きとなります。7月の市場は予想した相場より下げる展開となり80~90万で取引されましたが、8月後半の市場から道内外の大型牧場を中心とした導入が見込まれる他にも多くの導入が見込まれる事から、価格は再び上昇するものと思われます。育成牛については資源不足により高値を維持しておりこの傾向は暫く続くものと見込まれます。十分な暑熱対策が必要となりますが、価格を優先する場合は早めの導入をお願いします。
	初 妊 牛	83~93	⇄	
	経 産 牛	55~65	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	60~70	→	帯広管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で96.2%、累計で97.0%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10~11月の分娩腹が中心となります。依然として道内外の大型農場からの導入が続いており、また秋産みに向けて都府県の需要も回復してくることを踏まえると、価格は強含みで推移するものと思われます。腹別ではF1がメインとなっており、雌雄選別腹は市場動向次第ではF1腹以上の価格となる可能性もあります。育成牛は月齢別の強弱はありますが、全体として高値を維持したままで、さらにこの状況が続くものと思われます。
	初 妊 牛	85~95	↑	
	経 産 牛	55~65	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	60~70	→	道北管内の7月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.7%、累計で98.0%、北見管内では月計で96.4%、累計で98.3%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10~11月分娩腹中心となります。例年通り、秋以降の都府県需要は高まる予想されますが、道内においても大型牧場の施設完成、ロボット導入による増頭計画もあり、初妊牛相場は横這いから強含みで推移すると思われます。その中で雌雄選別腹は後継牛対策として需要が多いため相場は高値で推移するものと思われます。経産牛は即戦力となることから需要も多くなっておりますが、出荷回数が少なく相場は高値で推移すると思われます。
	初 妊 牛	80~90	→	
	経 産 牛	50~60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	60~70	→	道内の7月中旬までの生乳生産量前年比は96.6%、累計で97.5%の実績となっております。8月の初妊牛動向といたしまして、10月以降の分娩腹が中心となります。7月の相場を横ばいと予想しましたが、弱含みの相場となり、82~92万で取引されました。8月の相場は、残暑が残る時期での乾乳・分娩となる為、例年であれば需要も限定的となりますが、道内外のメガ・ギガファームの導入意欲は非常に強く、初妊牛相場も7月の相場から上昇するものと思われます。腹別の需要については、依然としてF1腹の需要が最も高いものの、初妊牛相場が高止まりしている事も影響し、雌雄選別腹の問合せも増えてきております。F1腹より資源的に少ない雌雄選別腹のご希望がございましたら、お早目のご連絡をお願い致します。
	初 妊 牛	85~95	⇄	
	経 産 牛	55~65	→	

今月の表紙



今月の表紙は、「第8回酪農いきいきフォトコンテスト」(第46回全国大会にて開催)で応募頂いた特選の作品「どうぞ!」(岡山県 山縣千晶 氏撮影)です。

平成29年8月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 8月号 No.623

●編集・発行人 大森 一幸

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記



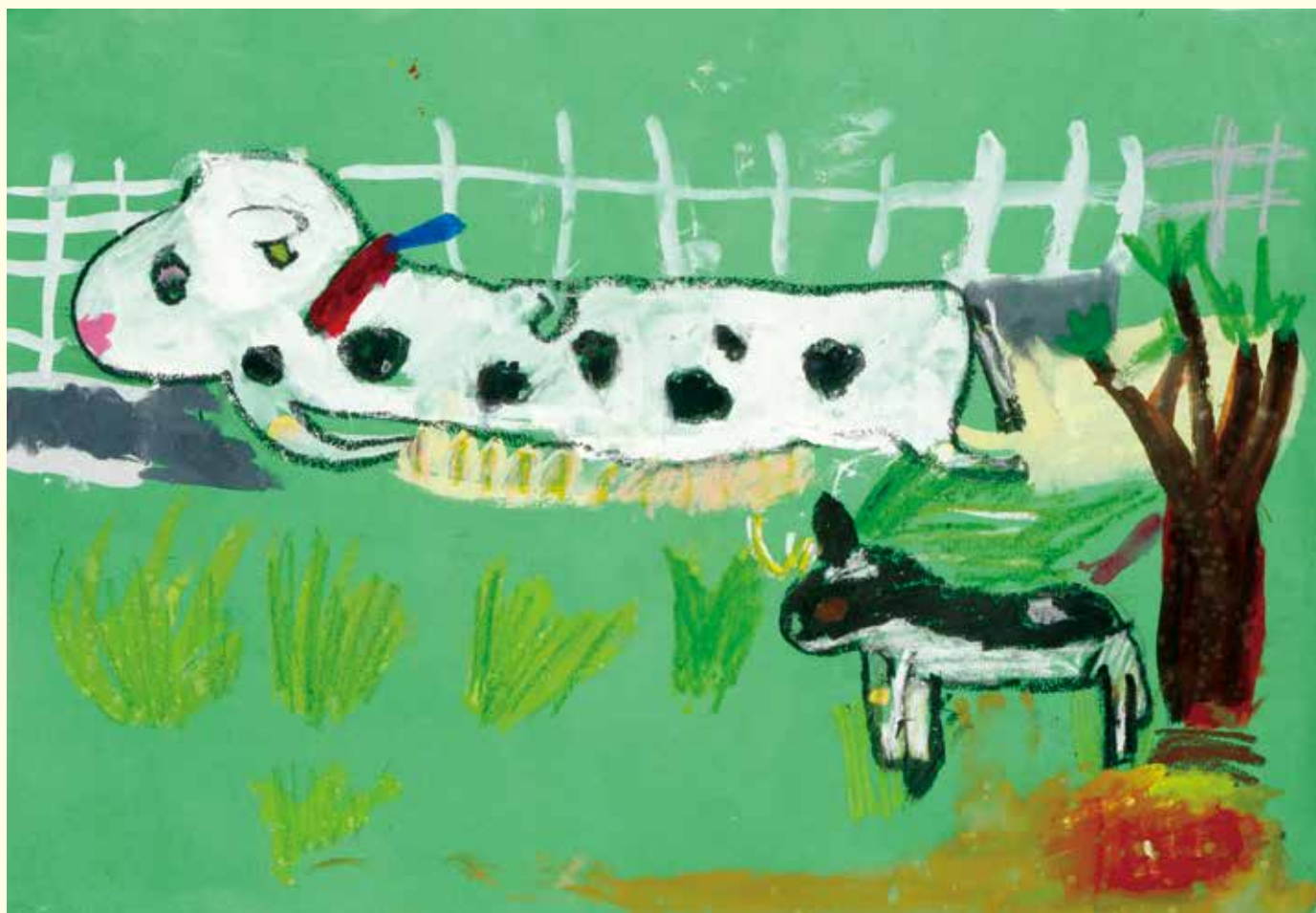
- 7月は全国的に天候の乱れる日が続き、地域によっては豪雨に見舞われ多くの方が被害に合われました。お見舞い申し上げます。
- 紙面でもご紹介したように、7月13~14日、札幌ビューホテル大通公園において第46回全国酪農青年女性酪農発表大会を開催しました。全国の皆様と一緒に盛大な大会を終える事が出来たと思います。
- 8月に入り、一段と暑さが厳しくなります。真夏の作業においては、熱中症の予防など健康に十分注意され、牛も人も元気に夏を乗り切りましょう。

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



かわいいうし

練馬区立大泉東小学校（関甲信）1年 喜多 小雪

今月の入賞作品は…

練馬区立大泉東小学校（関甲信）1年の喜多 小雪さんの作品です。

緑色の紙にクレヨンと水彩を使って描いた作品。敷料の上に寝そべる牛さんと手前の子牛さんを描くタッチにはスピード感と力強さがあり、魅力的な画面に仕上がっています。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第44回らくのうこどもギャラリー」で全国720点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議